

## 金袋山山行報告 (写真付)

伊藤さんからリーダーを引き継いだものの2週続いた週末の天気予報悪化で実施するか否か迷ったが現地のピンポイント予報 (<http://www.tenki.jp/mountain/>) では降雨の心配はなさそうなので予定通り実施することにした。

新宿からは私と後藤さんが6:33発ホリデー快速おくたま91号に乗る筈である、後で聞いたのだが中島さんも乗っていた。きょうは6:10には新宿駅について入線を待った。ホームはガランとしておりザックを背負った登山客、ハイカーの姿はほとんど見ない。行楽のこの時期考えられないことだやはり天気予報がかなり効いているとみえる。発車時刻が迫ってようやく数人のザックを担いだ人を見かけた。後藤さんは現れないし連絡もない、7:35体調不良でNGのメール連絡を社内を見た。これで2連続ドタキャンである、ほかにもそんな人がいた様な気がするが体調が悪いのでは仕方ない無理は禁物。シートには客はまばらしか座っていない、立川でかなり乗り込んできたがそれでも70%程度、青梅線に入って大幅に減り1,2割程度で一車両17,18名ぐらいしかいない。神田さん、天野さんと車内で顔合わせできた。定刻に奥多摩について8:35のバスに乗る、ちょうど座席が埋まる程度の乗客であった。ほぼ9時に東日原に着いて身支度を整えて鍾乳洞に向かって歩く、我々4人だけである。きょうはまさに“呑兵衛4人組”の山行となった、初めてのことである。登山口となる一石神社にきょうの安全を祈願して、ただしお賽銭をあげてないのでご利益の程は保証の限りではない。自ら十分注意して歩かなければならないと心してスタート。

以下山頂まで私の下手な記述はやめてNETの「[気ままに山歩き](http://www.yamaaruki.biz/210708sutounoatama.html)」から借用し『-----』内に転記した。(参照：<http://www.yamaaruki.biz/210708sutounoatama.html>)

『日原鍾乳洞手前の左側に一石山神社がある。ここの石段を登っていくと小さな神殿の前に出る。左側に社務所のような建物があり一石山(いちいしやま)への登り口はこの建物の右側から登っていく。すぐに「金袋山、ミズナラ」の標識があるので左側の踏み跡を辿る。道は初めは不明瞭だが昔に造られた石段が出てくるのでこれを見落とさないように辿る。かつて日原鍾乳洞が盛んだったころの遊歩道的な石段だと思うが、今は日原鍾乳洞へ訪れる人も少なくなりこれを登る人は限られた登山者だけだと思う。道は一石山への直登を避け左へ巻いて登っていく。薄暗い杉の樹林帯を登り尾根に出ると展望台と書いてある。しかし当時から数十年が経ち樹木が育ったため展望は得られない。さらに樹林帯を進んで行くと傾斜が緩み一石山頂上に達した。一石山は周辺が樹林に覆われ展望は得られない。一石山と書かれた小さな木片が細い木に付けられているだけで、うっかりして見落とす人が多いだろう。一石山を過ぎて緩やかに登る尾根道を歩く。前方に枝が伐採されたためか白っぽい杉林が見えてくる。真っ直ぐの木々で杉林とわかるがちょっと不思議な感じがする。やがて前方に傾いた大きな木が見えてくる。これが噂のミズナラの巨木か。この木は十年ほど前にテレビ中継されて有名になったという。傾いていていかにも恐竜が歩き出し

そんな感じだ。巨木の周りは木が置かれてサークルが描かれている。保護のためサークルの中に入らないようにとの意味なのだろう。前方の尾根にでて左方向に進む。緑の中の広葉樹林の広い尾根は緩い勾配なので気持ちよく歩ける。金袋山は頂上とも思えぬ平らな場所にあった。』

上記にも書かれていたように標識（足元の小さな板）と踏み跡の不明瞭もありスタートして少し余分な時間を使ってしまった。それにしてもいきなりの急登である、道幅も狭くひと一人がようやく歩ける程度、手掛かりになる岩も立木もない、ロープや鎖もないかなりハードな登山である。大概の山ではロープか鎖はあると思うが自分の脚力でバランスを取りながら歩くしかない。登りはじめてしばらくして先を見ると山ガール？が3人軽快に先を歩いているのに気が付いた。たしか我々が登る前神社で下の鍾乳洞の方を見ていたとき歩いていた3人だった。我々の方が先にスタートしたのにいつの間にかかなり前を快調に歩いているではないか、いつの間はどこから？さらに急登を行くと今度は右前方からひとりの女性が現れたこれも？しばらく行ってから一緒になったので聞いてみたら東京からマイカーで来たと言っていた、先週御岳山に行ったがやはり紅葉が綺麗だったとのこと、それ以上は進展なし。それにしてもさっきの3人とこの女性もかなりの山通というかベテランとお見受けした。そのほか出会ったのは山頂近くで降りてくる4人のパーティにすれ違った。山頂はかなり広げた場所で頂上らしくなく立木に小さな金袋山と書かれた木札がぶら下がっている。止まるとかいた汗が冷たく寒くなるみんな一枚着込んで寒さを凌ぐ。早速天野さん、中島さんがいつものように担ぎ上げてくれた貴重な健康飲料で喉を潤した。一斉にビールは寒くても旨いね！昼食時少し雨がぱらついたが全く支障はなかった。

下を見ると樹林の彼方に白く雲が覆っている、まるで湖のようだ。ここまで持ってくれた天気も怪しくなり40分ほどいて下山することにした。あの急坂は下山がとくに要注意で神経を使う、雨に降られたら危険が倍増する。我々よりかなり前に下山した例の女性3人組が後ろの別ルートに現れた、これも？？？。多分途中で道を間違え余分な時間を使ったのだろう。確かに途中の広いところは枯れ草に覆われ踏み跡が見つけにくいし雪山のようにどこを歩いても歩けるので、我々も同じようなことをやったのだ。14:52 なんとか無事に登山口に到着して一石神社にお礼参りを済ませもちろんお賽銭なしだが、続いて3人組が降りてきた。4人の記念写真のシャッターをお願いしきょう初めて飲兵衛4人組の写真が撮れた。東日原に15:32に月16:17のバスを待っていた頃西の空に青空が見えてきた。16:42 奥多摩に着き即もえぎの湯に向かう。湯上り後生ビールと軽い肴で無事下山を祝い乾杯し切り上げ駅近くの店に河岸を変えることにした。駅すぐ横に赤ちょうちんが見え暖簾をあげて中を覗くとカウンターが満席である。仕方なく隣の店も同じ。すると前の店の先客がちょうど潮時らしく席を空けてくれたのでほっと一息。愛想のいい可愛らしい着物にエプロン姿のおかあさんとの会話が弾んで電車の時間まで焼酎ボトル2本、2合徳利数本空けて店をでた。20:36 奥多摩発青梅行き電車我々4人だけの貸切。21:40 立川駅で解散

(11.10 三浦記)



新宿駅 11 番線ホーム おくたま 91 号



奥多摩駅バス待ち



東日原から日原鍾乳洞へ



民家？ところがトイレ



登山口の一石神社





一石神社社殿



金袋山登山口の標識



一石山

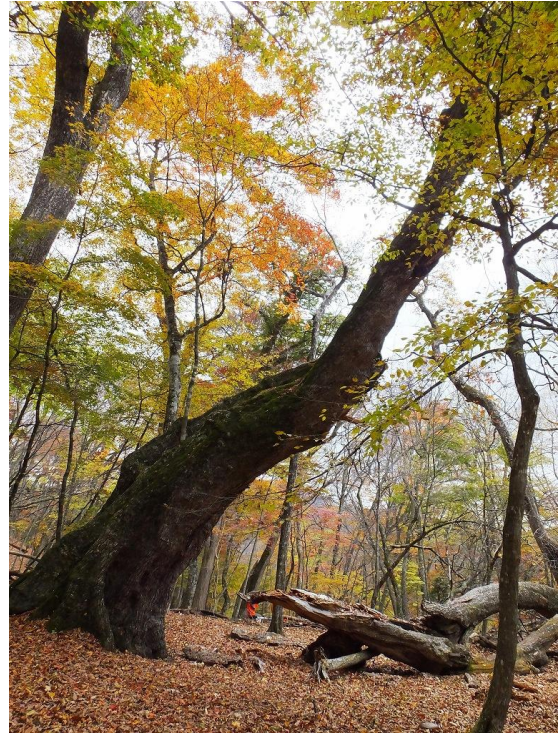
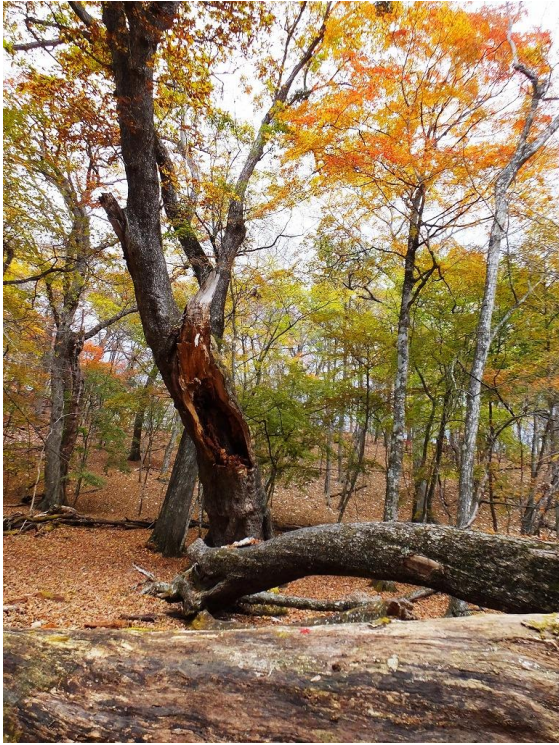


落ち葉と紅葉



紅葉・黄葉





ミズナラの古木



ミズナラの古木





金袋山山頂にて



紅葉







二次会場



飲兵衛 4 人衆



20 : 36 発青梅行



貸切